

第94回 理事会 議事録

1. 日 時 令和6年9月24日(火) 12時15分～14時05分
2. 場 所 アルカディア市ヶ谷
3. 出席者
- | | | | |
|-------|-------|--------|--|
| 会 長 | 楠 文代 | | |
| 副 会 長 | 中村 明弘 | 濱岡 純治 | |
| 常務理事 | 渡部 一宏 | 亀井 美和子 | |
| | 赤路 健一 | 市川 秀喜 | |
| 理 事 | 吉村 祐一 | 杉林 堅次 | |
| | 宮崎 智 | 小倉 勤 | |
| | 神野 透人 | 北川 裕之 | |
| | 新井 英夫 | 松末 公彦 | |
| 監 事 | 富田 基郎 | 市川 厚 | |
| 顧 問 | 井上 圭三 | | |
| 参 与 | 乾 賢一 | 本間 浩 | |

〔 理事現在数 17名 〕
〔 出席理事数 15名 〕

4. 議事の経過の要領及びその結果

議事に先立ち、楠会長から、前回理事会において、会長指名理事として新たに理事となった宮崎 智理事の紹介があった。

次いで、定款の規定に基づき楠会長が議長に就任し、理事現在数17名に対し、本日の出席理事は15名となり、定款に定める定足数を満たしており、本理事会が有効に成立していることが宣言された。

また、議事録署名人として出席理事から、渡部一宏常務理事を指名し、事務報告の後、議案の審議に入った。

(1) 前回議事録の確認について

前回議事録(第93回理事会:令和6年7月2日開催)について、全会一致でこれを承認した。

(2) 第109回薬剤師国家試験問題検討委員会の報告について

中村副会長(薬剤師国家試験問題検討委員会委員長)から、7月17

日（水）に開催された「厚生労働省 医道審議会 薬剤師分科会 薬剤師国家試験問題 事後評価部会」に関し、以下の報告があった。

当日、田村和広薬理部会委員長（東京薬科大学）とともに出席し、先に厚生労働省へ提出した「第 109 回薬剤師国家試験問題の検討結果について」の概要説明を行った。

特に、「薬剤師国家試験の“科目別出題”に限界がある。」との指摘がさらに多くなり、薬剤師の実務に科目の区別はないことから、“科目別出題”の在り方について検討を行うよう要望した。また、必須問題の難化が指摘され、今回、必須問題の合格基準を満たすことができずに不合格となった受験生が増加したと推定されることから、必須問題の適正化及び合格基準の在り方に関しても検討を行うよう要望した。

（３）薬学実務実習における実習期間延長（８週間程度）に関する 取扱いについて

楠会長から、薬学実務実習の実習期間延長の検討状況について、情報を共有したい旨発言があり、以下のとおり報告があった。

① 薬学教育協議会における議論について

本間参与（薬学教育協議会代表理事）から、「資料 3-①」に基づき、「薬学実務実習ガイドライン改訂 WG」において、実習施設の要件について検討していること、また、改訂ガイドラインに記載された追加の実習について、今後、どのように議論を進めるべきか検討していること等の報告があった。

② 文部科学省薬学教育指導者のためのワークショップにおける議論について

亀井常務理事（同ワークショップチーフタスクフォース）から、「資料 3-②」に基づき、テーマ 1：「臨床における実務実習に関するガイドライン～薬学教育モデル・コア・カリキュラム～」への対応について、特に追加の 8 週間の実習に関する問題点として、以下の内容が議論されたこと等の報告があった。

- ・追加実習の目的の明確化
- ・実務実習の実施時期、実習施設の確保、実習経費
- ・実習の実施方法（薬局、病院のいずれかに限定するのか）

③ 「国公立大学薬学部長（科長・学長）会議による要望について

小池事務局長から、「資料 3-③」に基づき、国公立大学薬学部長（科長・学長）会議から文部科学大臣宛に提出された要望書については、特に追加の実務実習に関し、以下の内容が要望されたこと等の報告があった。

「現行の 22 週間実習の評価から始めて、追加実習の必要性や目的、費用負担、受け入れ機関の確保、実習内容の妥当性など、多角的な視点から議論を深めることが求められます。現状、特に国公立大学薬学部は薬剤師養成のみではなく、創薬人材の育成も求められており、学部学生の全員に追加の 8 週間の臨床実習を課すことは、目的・意義、実施体制などから適切ではないと考えます。より発展的な内容を学修すること自体は重要であり、この点に関しては同意しますが、それが実務実習だけであることに違和感を覚えます。

また、実務実習期間は卒業研究と重なっていることから実務実習の 8 週間の延長は、そのまま卒業研究の短縮につながり、ひいては、日本の創薬力の低下につながることを考慮すべきと考えます。」

④ 本協会事務局長（事務長）会議における「承合事項」の結果について

小池事務局長から、「資料 3-④」に基づき、各大学の追加実習の検討状況について報告があった。

（４） 広報誌「6 年制薬学ガイド 2026」の刊行について

亀井常務理事（広報誌編集委員会委員長）から、今回刊行する「6 年制薬学ガイド 2026」に関し、作成目的を再確認し、高校生を対象として薬剤師、6 年制薬学部への興味・関心を高めることとし、これまでの内容を活かしつつ、見せ方を大幅に変更する編集方針としたい等の説明があった。

また、「薬剤師という未来」をキャッチコピーに、薬剤師の未来を予測できる見識の広い方々にインタビューする内容を織り込むこととして、来年 3 月末の発行を目途に作業を進めていきたいとの報告があった。

（５） 令和 7 年度本協会主要会議（理事会・総会）の開催予定について

小池事務局長から、「資料 4」に基づき令和 7 年度理事会・通常総会等の開催予定について説明があり、これを了承した。

（６） 全国薬科大学長・薬学部長会議における「第 1 回薬学共用試験専門委員会」の報告について

中村副会長（同専門委員会委員長）から、「資料 5」に基づき、本委員会が設置された趣旨及び 7 月 26 日に開催された第 1 回委員会について説明があった。

改訂コアカリに基づく CBT、OSCE の方向性が提案されたことを受け、

現在、大学内で課題となっていることについて意見交換を行ったこと、今後、薬学共用試験センターとの協力・連携関係をどのように進めていくのか検討する予定であること等の報告があった。

(7) 創薬貢献の薬学人材拡大について

小池事務局長から、「資料6」に基づき創薬に関する薬学人材養成の政府方針及び文部科学省等の動向について説明があった。

(8) 薬学教育協議会について

本間参与（薬学教育協議会代表理事）から、「資料7」に基づき、以下について報告があった。

- ・2023（令和5）年度実務実習実施結果（病院・薬局）
- ・2024（令和6）年度在籍者数調査結果（6年制・4年制）

(9) 薬学共用試験について

中村副会長（薬学共用試験センター運営委員会委員長）から、「資料8」に基づき、2024年度薬学共用試験 CBT 体験受験の試験結果について報告があった。

(10) その他

○ 令和6年度文部科学省薬学教育指導者のためのワークショップについて

亀井常務理事（同ワークショップチーフタスクフォース）から、「資料9」に基づき8月30日に開催されたワークショップの概要について報告があった。

テーマ：「未来の社会や地域を見据え多様な場や人をつなぎ活躍できる人材を輩出する薬学教育について考える」

- ① 「臨床における実務実習に関するガイドライン～薬学教育モデル・コア・カリキュラム～」への対応
- ② 入学生確保、学生支援、教育の質向上に向けた課題と取組
- ③ 薬剤師の地域偏在を解消するための教育プログラムの構築
- ④ 薬学系研究人材の育成に向けた課題と取組

○ 「第9回日本薬学教育学会大会」について

乾参与（日本薬学教育学会理事長）から、8月17日（土）・18日（日）に東京薬科大学において開催された「第9回日本薬学教育学会大会」

テーマ～薬学教育におけるプロフェッショナリズムとは?～」について
大会概要等の報告があった。

5. その他

- ・ 文部科学省及び厚生労働省の令和7年度概算要求の概要について
「参考資料」の配布があった。

議長は、以上をもってすべての議案の審議を終了した旨発言し、
14時05分閉会を宣言した。

以上の議決を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び出席理事
(指名された議事録署名人)、監事がこれに署名捺印する。

令和6年10月15日

一般社団法人 日本私立薬科大学協会

議 長 楠 文 代
(押印済)

出席理事 渡 部 一 宏
(議事録署名人) (押印済)

出席監事 富 田 基 郎
(押印済)

出席監事 市 川 厚
(押印済)